

「耐火テープ電線管タイプ IKD-N」
加振試験報告書

2014年 7月 17日

因幡電機産業株式会社
技術開発センター

1. 目的

耐火テープ電線管タイプ IKD-N を使用した区画貫通処理について、地震が発生した際に貫通部材の飛び出し、外れ、破損および脱落などが発生しないことを、3次元振動台を用いた加振試験にて確認する。なお比較の為、IKD（旧タイプ）についても同様の試験を実施する。

2. 性能評価機関

（一財）建材試験センター

3. 試験方法

3-1. 試験装置

3次元振動台に形鋼で作成した試験枠が固定しており、試験枠に対して吊り下げた試験体に振動を加えることができる試験装置。

3-2. 試験条件

①試験体

- ・貫通工法仕様

耐火シート-104[ケーブル 600V CVT250sq (1条) +CVT100sq (1条) : 占積率 30.3%]

- ・ALC 壁の固定

ALC (厚 100 mm) を鉄骨枠にて囲み、下部は、鉄骨枠を振動台に固定し、上部は重量試験枠に固定した。



図-1 試験体（表面）

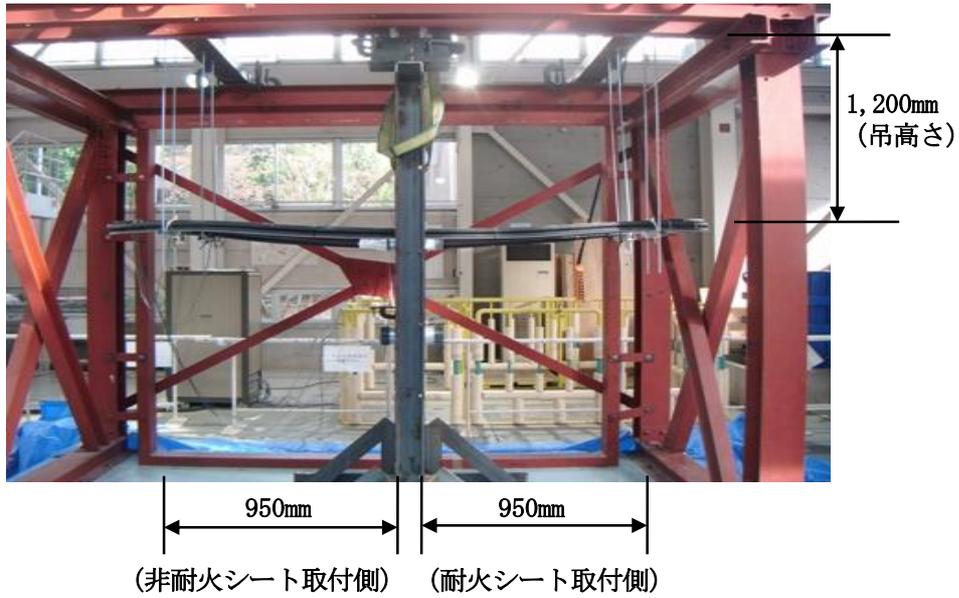
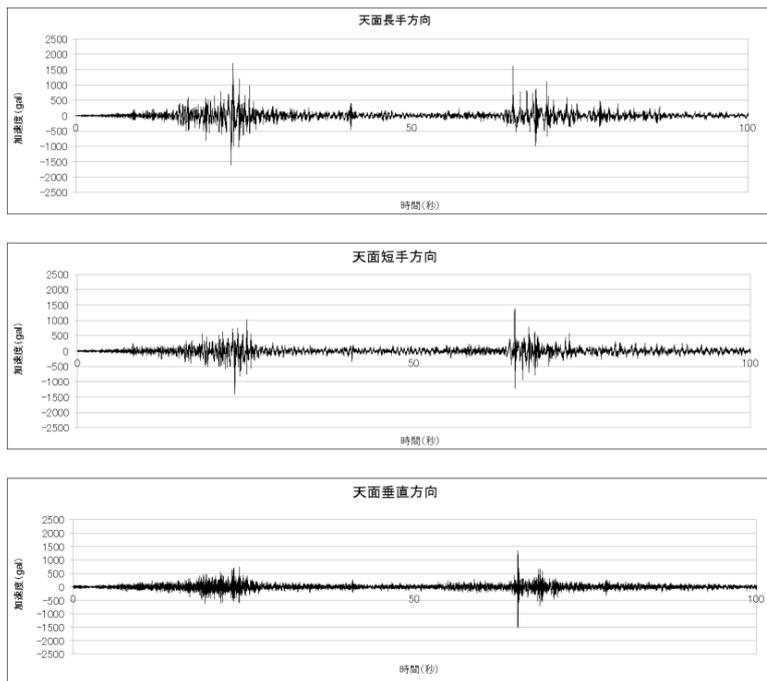


図-2 試験体 (側面)

②加振条件：東北地方太平洋沖地震波（JMA 東北波：（下図参照））



加速度計にて、加振台、ALC 壁、配管吊部を測定し、健全に加振されているか確認した。
加振試験時の実測値を表-1 に示す。

表-1 加振試験時の実測値

方 向	最大加速度
天面長手方向	1719gal
天面短手方向	1408gal
天面垂直方向	1527gal

3-3. 試験手順

3-1に示した試験装置を用い、3-2に示した試験条件で加振したときの、区画貫通処理の状態を目視にて確認する。

3. 試験結果

試験結果を表-2に示す。

表-2 試験結果

耐火シート	加振前	加振後
IKD-N (新タイプ)		
IKD (旧タイプ)		

「IKD-N」にて施工を行った試験体については、貫通部材の飛び出し、外れ、破損および脱落などは発生しなかった。

以上